



消防だより

119

6月の広報テーマ

「災害弱者に対する支援の推進」

災害弱者の支援

万が一災害が発生した場合は、迅速な避難、救助活動などが行われますが、過去の災害をみると犠牲者の多くは、素早い行動の取れない幼児、高齢者など、災害弱者と呼ばれる人達で占められています。

災害弱者は普段からの判断能力、行動などに大きなハンディキャップを有していることから、健常者と比べて災害時には致命的な被害に合う確立が極めて高いため、近隣の方々のサポートで安全を確保してあげてください。

消防、役場などの公共機関が災害時の活動をスムーズに進めるためにも、皆様のお手伝いが必要なのです。特にご近所同士のコミュニケーションにより情報を共有し、いざとなった時に素早く対応できる環境を作るため、お互いに協力しあい、地域が一丸となって災害弱者の方達

に積極的な支援を行えるよう心がけましょう。

《災害弱者とは》

一般的な概念では、傷病者、身体機能障害者、精神障害者をはじめ、日常的には健常者であっても理解能力や判断力をもたない乳幼児、体力的に衰えのある高齢者や、わが国の地理や災害に関する知識が乏しく、日本語の理解が十分でない外国人などを、いわゆる災害弱者としてとらえることができるでしょう。防災対策上は、地震・火災などの災害が発生した場合自力による避難が困難な者で、防災上支援を要する者とされています。

虻田消防団の実践訓練が行れる！

小雨が降りしきる5月13日、午後1時30分より洞爺湖町いぶり噴火湾漁業協同組合の庁舎を出火建物に想定し、虻田消防団（団長 菅原義明）の実践

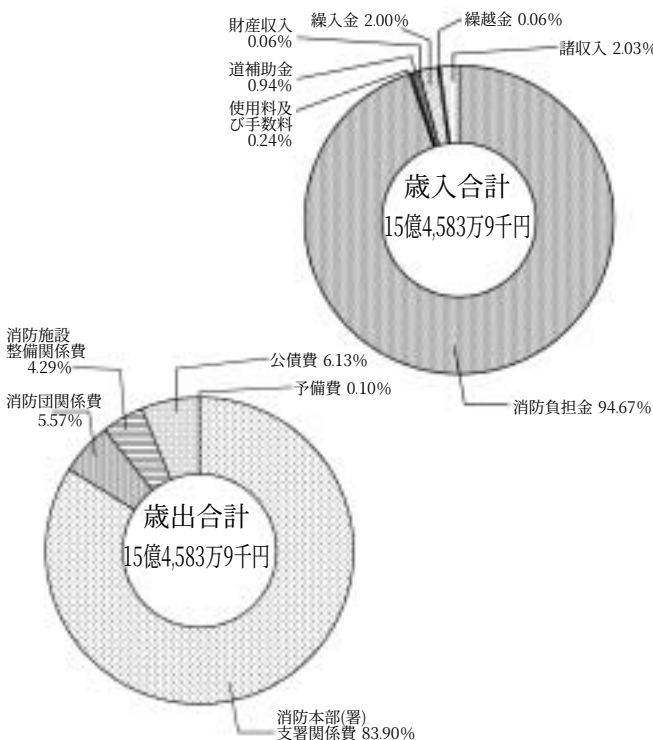
訓練が行われました。

この訓練は、同時期に行われていました恒例の春季消防演習に代えて行ったものであり、想定内容は参加消防団員に一切伝えず、日頃の訓練で培った迅速な消火活動を行うと共に、消防組織に最も必要とする指揮命令が的確に伝達され、本番さながらな訓練となりました。

訓練終了後の反省会では、実際の火災現場での状況判断を身に付ける目的で、このような訓練を定期的に行ってほしいという声が多く上がったことで、郷土防災の一翼を担う消防職・団員の意識が、さらに高められた一日となりました。



虻田消防団の実践訓練



単位:千円

【歳入】		1,545,839
1. 消防負担金		1,463,462
(内訳)		
伊達市		710,452
洞爺湖町		420,262
豊浦町		172,426
壮瞥町		160,322
2. 使用料及び手数料		3,787
3. 道補助金		14,454
4. 財産収入		901
5. 繰入金		30,870
6. 繰越金		1,000
7. 諸収入		31,365
【歳出】		1,545,839
1. 消防本部(署)支署関係費		1,296,938
(内訳)		
議員・監査委員関係		1,144
職員給与関係		1,156,732
基金積立金		29,235
その他		109,827
2. 消防団関係費		86,137
3. 消防施設整備関係費		66,369
4. 公債費		94,795
5. 予備費		1,600

西胆振消防組合 平成19年度予算概要